

ビブリオバトル（知的書評合戦）

中学生・高校生による ビブリオバトル （知的書評合戦）を実施して

はじめに

第 11 回「図書館と県民のつどい埼玉」でビブリオバトルを開催しました。「人を通して本を知る 本を通して人を知る」をキャッチコピーとするビブリオバトルは、「みんなが「図書館」でつながる日」がテーマである当イベントにぴったりの催しです。

1. ビブリオバトルとは

「ビブリオバトル」とは、バトラーと呼ばれる出演者がおすすめの本の魅力を 5 分で語り、参加者の投票で一番読みたくなった本「チャンプ本」を決める、スポーツのような書評会です。新しい形の書評会として話題になり、全国の公立図書館や中・高等学校、大学でも盛んに行われ、全国大会も開催されています。ビブリオバトルは 2007 年に谷口忠大氏（現立命館大学情報理工学部准教授）によって始められ、今年で発案 10 周年を迎えます。本を紹介した新たなコミュニケーションゲームとして様々な場に広がり、本と人との出会いを生む読書推進イベントとしても注目を集めています。埼玉県でも、埼玉県教育委員会主催の「彩の国 高校生ビブリオバトル」が 2014 年から開催されるなど、広がりを見せています。「図書館と県民のつどい」では 2014 年から開催し、今回は 4 回目となります。

2. ビブリオバトルの様子

今回のバトラーは、県内の中学生・高校生にお願いしました。

中学生は公募したところ、18 名の応募がありました。予選会を実施し、勝ち抜いた 3 名

が出場しました。また高校生のバトラーは、「彩の国 高校生ビブリオバトル 2017」で決勝に進んだ 3 名です。

当日は公式ルールに則り、発表 5 分、質疑 2 分でビブリオバトルを行いました。

バトラーと紹介された本は下記の通りです。

笛木 明恵さん（埼玉県立深谷第一高等学校）
『屋上のテロリスト』

知念 実希人 著（光文社）

田口 真帆さん（さいたま市立常盤中学校）
『高校入試』

湊 かなえ 著（角川書店）

角田 莉緒さん（久喜市立鷲宮西中学校）
『スピン』

山田 悠介 著（角川書店）

菊池 香帆さん（所沢市立中央中学校）
『フォルトゥナの瞳』

百田 尚樹 著（新潮社）

小滝 悠花さん（埼玉県立越ヶ谷高等学校）
『微笑む人』

貫井 徳郎 著（実業之日本社）

原田 玲花さん（埼玉県立滑川総合高等学校）
『夜は短し歩けよ乙女』

森見 登美彦 著（角川書店）

バトラーはそれぞれ工夫を凝らして本の魅力を熱く語り、観覧者も積極的に質問して、会場は大いに盛り上がりました。

参加者全員の投票の結果、チャンプ本には、小滝悠花さんが紹介した『微笑む人』が選ばれました。

観戦された方からは、「時間内に、その小説の事をよく盛り込んでとても良かった。全部読んでみたいと思った。」「中高生の読む力の深さ、豊かさに接することができました。」「一

一人の個性が出る発表で聞きごたえがありました」「6冊のお話に引き込まれました。全部読んでみたくなりました。ビブリオバトルは、読書の拡大に有効な取組だということが良く分かりました。」といった感想をいただきました。

また、最後になりましたが、当日の準備・運営等のご指導をいただきました関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

